

1964年、大阪府に働く職員でつくられた「うたごえ行動隊」。翌年に「府庁うたごえ」としてサークルに発展し40年を迎えた。2月に記念コンサート『ねがい』が開催される。多忙な年末年始の職場に加え、レッスン、コンサート準備に追われる中、団員OBや職場の仲間の協力も得た心のこもった楽しい演奏会を創りあげようと心一つにしている。

「府庁うたごえ」

平和のねがいにのって
うたごえは



みんなの願いを共有できるコンサートへ全力

「みなさんのねがいは、どんなものがあるのでしょうか？住民のためにいい仕事をしたいとか、健康で豊かにくらしたいとか。また、親の立場から子どもたちが元気に育ってほしいという願いも切実ですね。こう話す指揮者の小池哲夫さん。さらに、イラクなどでは殺戮が繰り返され、不安な毎日を送っている子どもたちもたく

さんいる。自然災害や病気などでなくて、普通に暮らす人たちが「明日も生きていたい」というねがいさえ脅かされているなんて何なんでしょう。世界のあちこちで起こる貧困と飢餓、争い、毎日が生命への脅威と対峙する人たちのくらしに思い馳せる。私たちが大切に持ち続けているねがいの一つひとつは、平和なく

らしがあって初めて実現へ歩みだすもの。平和のもとで生きる確かな約束として憲法9条が今輝いているのではないのでしょうか、と問いかける。

「うたごえは平和の力」…この力をひろげ、つないで、みんなのねがいをたばねて共有できるコンサートへ全力。団員の新年はスタートした。



昨年秋の文化祭でのコンサート

府庁うたごえ合唱団
40周年記念コンサート
「ねがい」

2月2日(水)午後7時開演
クレオ大阪東ホール(京橋下町)
参加協力券1500円



本番間近、力が入る指揮者の小池さん

憲法改悪の動きが強まっている。平和とは、みんながいきいきと人間らしく生きること。憲法の原則である恒久平和、民主主義、基本的人権、地方自治が崩されかけている。憲法を守り生かす仲間を追ってみた。

憲法

守り生かす

2005年のテーマ



192

きしわだ自然資料館

風間 美穂さん

(岸和田市職労)

岸和田周辺の自然環境についての調査や研究を行い、それによって見えてくる自然の現状を、資料館での展示や自然観察会、学校への出前授業などで市民に知らせることにより、環境保護への関心を高めてもらう「きしわだ自然資料館」。ここで、調査や普及活動などを行っている学芸員の風間美穂さんに鳥と自然のお話を聞きました。

間さんは、長期にわたってデータを集めることが、環境を守るのに必要なことだといいます。



動植物と人間が共存できるよう

これまでに風間さんが岸和田市内で確認した野鳥は200種類以上。日本で見られる野鳥のおよそ3分の1です。「鳥たちが住みやすいところは、人間にとっても住みやすいところ」という確信が、定期的なデータをとるたびに実感できるといいます。

「冬の水辺は野鳥観察にもっともよい季節。風のあまり強くない日に、ぜひ戸外を歩いて、身近な緑や水辺、空をながめてみてください。おや？というように鳥に出会えるかもしれないし、ふだん見ている鳥でも、じっくり観察すると、意外な美しさを発見するかもしれませんよ」。冬になると、市街地でも、オオタカが飛んでいるのを見ることができそうです。

「子どものときから、空をながめたり、生き物を観察するのが好きだった」風間さん。鳥をはじめとする多様な生き物と人間が、共存できるまちづくりに少しでも寄与できるよう、ひとつひとつデータを積み重ねていく地道な調査活動は、酉年の今年もはじまっています。

鳥たちも
人たちも
ずっと住めるまちへ

125種が集まる「野鳥の国際空港」

「岸和田をはじめとする大阪南部の自然は、いろいろな問題点がありますが、捨てたものではありませんよ。鳥類調査を通じての実感といいます。

ただし、自然環境の変化や問題点については、短期間でこうと決めつけるのはたいへん危険で、長期間にわたる調査によってはじめて見えてくるものだといいます。「私は鳥を主に調査していますが、同勤の昆虫や植物の学芸員からは、私とはまた異なる問題点を指摘しています」とのこと。

10年前、岸和田市に採用されたとき、この地域を特徴づけている自然環境を調査しようと思い、市内に700以上ある「ため池」に注目したといいます。ため池は本来、農耕のためにつくられた人工物ですが、長い年月をかけて、ヒト以外の生物にも必要な環境となり、自然の一部として地域にとけこんでいます。

もちろん、鳥にとっても大切で、岸和田市にある府下最大の水面面積をもつ「久米田池」周辺では、渡り鳥を中心に125種類もの野鳥が確認されています。「野鳥の国際空港」と風間さんが名付けるほどです。また、毎年1月に全国一斉に行われる「ガンカモ科鳥類生息調査」によると、岸和田市のため池では、ハシビロガモというカモが、府内でもっとも多く確認される年が何度もあるとか。

しかし、ため池だけあっても、鳥をはじめとする生き物は生きていけません。「大阪南部だと、和泉山脈の森林から丘陵地の里山環境、緑地のある市街地から大阪湾までに、連続して、生物が生息できる環境がある。それが大切なのです」。

「市内のため池のなかから100あまりを選んで、定期的に鳥類調査をしています」と話す風

